

激動の時代
南方への憧れと葛藤

中村地平

岡田三郎

井伏鱒二

中川一政

上泉秀信

バスガイド

ドキュメンタリー映画

中村地平

Chihei nakamura

宮崎市制100周年記念
宮崎県置県140周年記念

○脚本・監督：小松孝英 ○撮影・編集：ワタナベカズヒコ ○プロデューサー：故清武清 ○編集：水崎皓平

○翻訳：鄭恵文 ○朗読：伊藤海 ○語り：加藤沙知 ○WEB：野崎一生 ○撮影：松尾定紀 ○音楽：小松梨奈 ○特別協力：中村横子(中村地平次女)



【高岡地区上映会】 入場無料

9月7日(土) 高岡地区交流センター(旧改善センター)

○14:00 上映～ ○15:30～16:00 小松監督とのアフタートーク

【主催】 高岡まちづくり委員会 問合せ先/0985-72-8837

高岡小学校校歌の作詞が「中村地平」であることを皆さんはご存知ですか。

中村地平 (本名 中村治兵衛) 1908~1963

宮崎県宮崎市出身の小説家。明治41年宮崎の商家に生まれる。父は宮崎太陽銀行創業者の中村常三郎。旧制宮崎中学校時代に佐藤春夫の台湾小説に憧れ日本統治時代台湾の旧制台北高等学校に入学。

台北高等学校では塩月桃南らに学び、桃南の長男超らと芸芸誌「翔風」や「足跡」で創作活動。

昭和5年に上京し東京帝国大学文学部入学。太宰治と出会い井伏鱒二に師事し「熱帯柳の種子」で文壇デビュー。その後、台湾を舞台とした小説の他に多数の作品を発表。

「北の太宰、南の地平」と言われて芥川賞候補にもなり南方文学を提唱する著名な作家となった。

しかし世の中は戦時体制下に入り、中村地平は徴用され従軍作家として行ったシンガポールでとある事件に遭遇する。戦後、中村地平はなぜ中央での南方文学を中心とした作品から転向したのか。

なぜ地元に戻り宮崎の戦後復興、今の時代で言う地方創生に命を捧げたのか・・・

脚本・監督：小松孝英
撮影・編集：ワタナベカズヒコ
プロデューサー：故清武清
編集：水崎皓平
翻訳：柳憲文
朗読：伊藤海
語り：加藤沙知
WEB：野崎一生
撮影：松尾定紀
音楽：小松梨奈
特別協力：中村横子(中村地平次女)

構成顧問：岡林稔
台湾文学史顧問：河原功
台湾美術史顧問：森美根子

制作協力：
阮文雅／張文薫／林碧登
邱建堂／中村洋介／矢野勝敏
渡辺綱横／原田解／菊池銃一郎
黒木裕／小野和道／南邦和
平山文春／中竹俊博／清家智子
井上康志／藤山由香利／迫立敏弘
鶴田萌子／日高清州代／森山修／陳雲

Promoter：
渡辺康晃／井手義哉／神田浩一
黒岩寛史／渡辺一弘

デザイン：出水洋一郎
題字：今井美恵子
編曲：ヤマカミヒトミ

協力：
川上昌明／吉瀬真澄／佐野ありさ
邱函妮／王淑津／長友大輔／田丸真美
小笠原麻美／林克三／迫田哲平

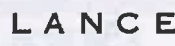
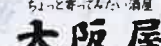
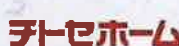
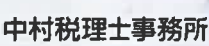
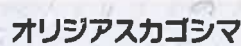
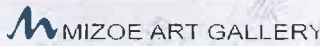
古写真資料提供：
中村家／塩月光夫
上泉秀人／上泉眞裕／中山雅弘
三尾和子／梅崎辰實／土持孝博
ふくやま文学館

取材協力：
宮崎県立図書館／都城市立図書館
宮崎県企業局
台湾師範大学芸術学院
東呉大学日本語文学科
台湾大学台湾文学研究所

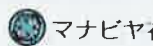
後援：
宮崎県／宮崎県教育委員会
宮崎市／宮崎市教育委員会
都城市／都城市教育委員会
一般財団法人 台湾協会
台北駐日経済文化代表処



○Sponsors



管理人 中村横子
マナビヤ百輪アカデミー



マナビヤ在宅クリニック

(有)グリーンプラザ宮崎

